pleasant ではありません

辻　憲男（文学部教授）

地下鉄の“旧居留地・大丸前”はなかなかロマンチックな駅名だ。昔の市電の軌道もここから栄町通のほうへＳ字形に曲がっていた。外国人居留地は百年も前になくなったが、今もビルや街角が若かりしころの港町をしのばせる。

明治27年（1894）10月、ラフカディオ・ハーンは船で神戸に着いた。島根県の松江中学校、熊本の第五高等学校の英語教師から、神戸クロニクル社の論説記者への転職だった。アメリカでの新聞社勤めから、４年前に来日し、永住を決意した。ハーンが神戸で直面したのは、西欧文明と日本の伝統文化の激しいせめぎ合いだった。日清戦争勝利に沸く時世、洋風に俗化した町、そして不愉快な外国人たち。友人ヘンドリックへの手紙に“Kōbe is a nice little place. The effect on me is not pleasant, however.”と書いた。彼らのカーペット、汚れた靴、流行、浪費生活、気取り、虚栄、おしゃべり。そんなものより、日本人女性の音をたてない歩きかたや優しい物言いが好ましかった。古風な城下町で暮らしたせいか、やわらかな畳の上、しとやかで礼儀正しく、美しく清らかで質素な生活のほうがはるかに心地よかった。

松江で小泉セツと結婚し、神戸で日本に帰化して小泉八雲と名乗った。眼病が悪化したが、静かな夜、物語の好きな妻に昔話や伝説を語らせて英語に書きとめた。耳なし芳一、むじな、雪女などの『怪談』はそうして生まれた。

市立博物館西側の１５番館は旧アメリカ領事館。重要文化財。